

知識データベースのCMM定着に 果たした役割

古河インフォメーション・テクノロジー(株)

FITEC Corp.

企画管理室 大坂 豊昭

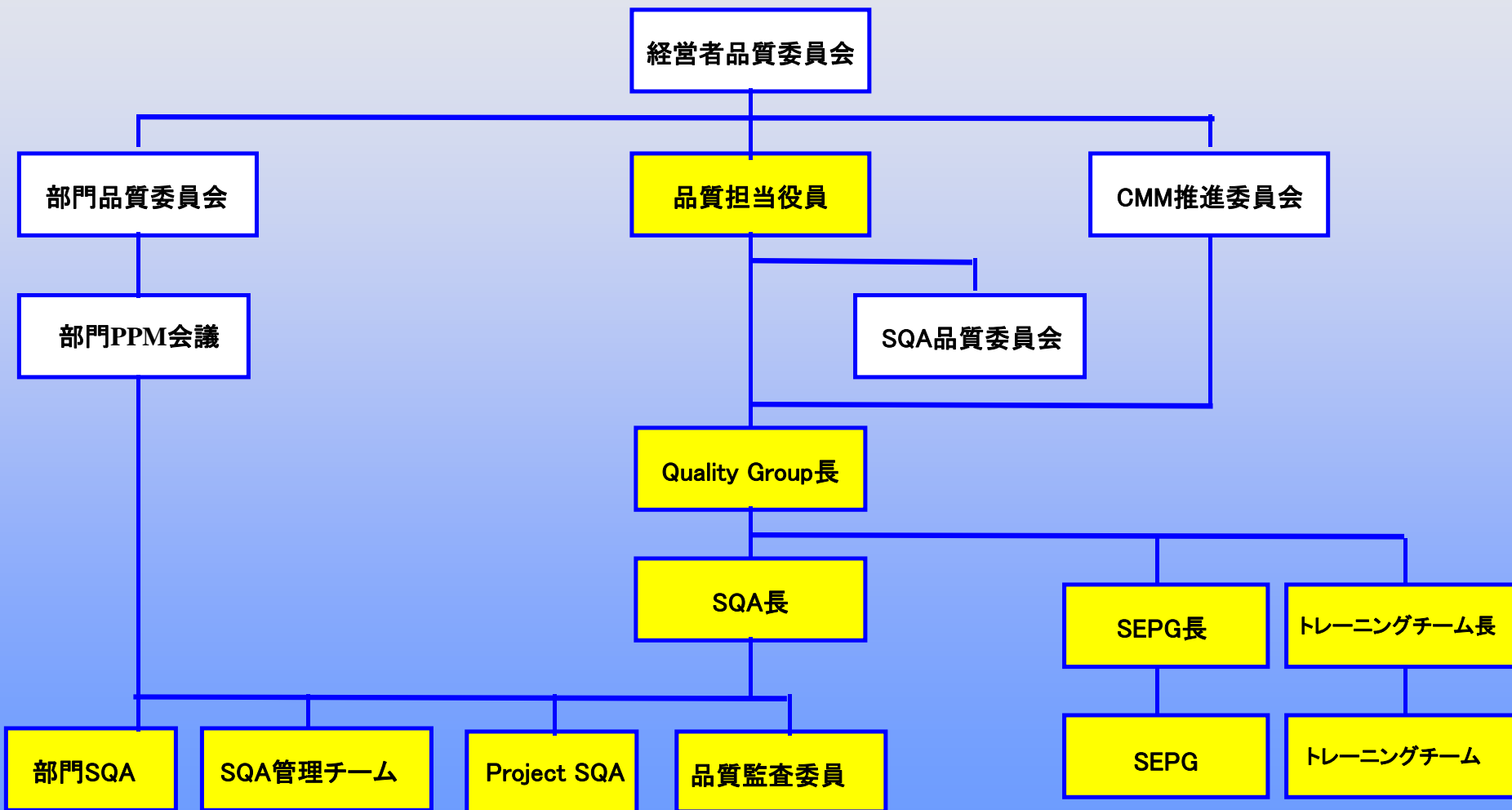
知識データベース構築の背景

- 当社では、高品質の達成と生産性向上のための方策として、2000年1月～CMMの取り組みを開始した。
- 2000年1月～SEPGが標準プロセスを定義し、2001年6月～SQAが支援活動を実施し、2001年10月～トレーニングチームが標準プロセスのトレーニングを実施した。
- その後、CMMがある程度定着したが、プロジェクト側より「計画時に他のプロジェクトのデータを参考にしたい。」との要望がSEPGへ寄せられるようになった。
- 標準プロセスやプロジェクトデータにおいて、プロジェクト側、SQA、SEPG間で情報共有を図る必要があった。

知識データベース構築の目的

- 標準プロセスやプロジェクトデータを蓄積し、公開するためのWebシステムを構築する。
- 知識データベースにアクセスした社員が、容易に参照したり、ダウンロードすることができる。
- 2002年7月～知識データベースの運用を開始した。

FITEC 品質保証体制



(知識データベース担当)

知識データベースの内容

知識データベースの主な内容としては、

- プロセス定義
- プロジェクト・ショーケース(作成例)
- ベストプラクティス
- プロセス・データベース
- トレーニング関連

知識データベースの内容

PAMS - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り メディア

アドレス(D) | 移動 リンク >>


Fitec

Home | QMS文書 | インフォメーション | データベース | トレーニング | Corporate Process | フィードバック | ヘルプ | FAQs | アカウント申請 | TOPICS | 階層図 | 操作マニュアル | 終了

検索

Go

Home
QMS文書
インフォメーション
データベース
トレーニング
Corporate Process
フィードバック
ヘルプ
FAQs
アカウント申請
TOPICS
階層図
操作マニュアル
終了



品質方針と目標

2004年度品質目標(Draft)

- (1) プロセス遵守率95%を維持する。
- (2) 2004年度損失金額を2000年度対比で50%削減したことを確実にする。
- (3) 決算に結びつけた損失金額の削減

インターネット

知識データベースの内容 プロセス定義

■ 目的

プロセス定義書、テンプレート、ガイドライン、チェックシートを掲載することで、知識データベース利用者が参照、ダウンロードすることができる。

■ 内容

プロセス定義書、テンプレート、ガイドライン、チェックシート、プロセスチェックの際にSQAが使用するPPM (Project Process Monitoring) チェックシート。

■ 担当

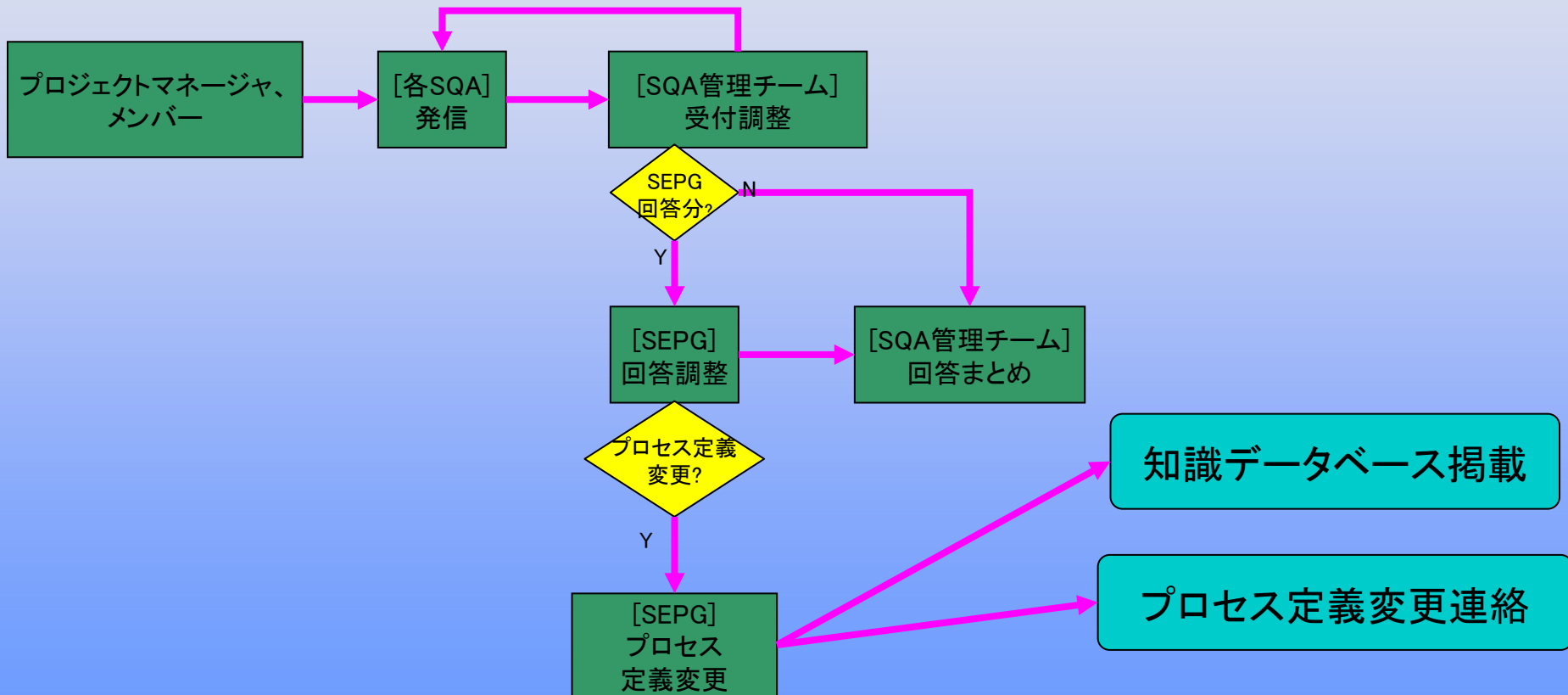
SEPG

■ 活動

[1] プロセス定義リリース時、SEPGが、プロセス定義を知識データベースに掲載する。

知識データベースの内容 プロセス定義

<プロセス改善提案のフロー>



リリースは全SQA、プロジェクトマネージャ、
部門長宛てに連絡する

知識データベースの内容 プロジェクト・ショーケース

■ 目的

プロジェクトメンバーがドキュメントを作成する際に参照できるように、プロジェクトが作成したドキュメントを収集し、知識データベースに掲載する。

■ 内容

要件分析時、プロジェクト計画時に作成するドキュメント一式。
テーラリングの記録。

■ 担当

プロジェクトマネージャ ⇒ SQA ⇒ SEPG

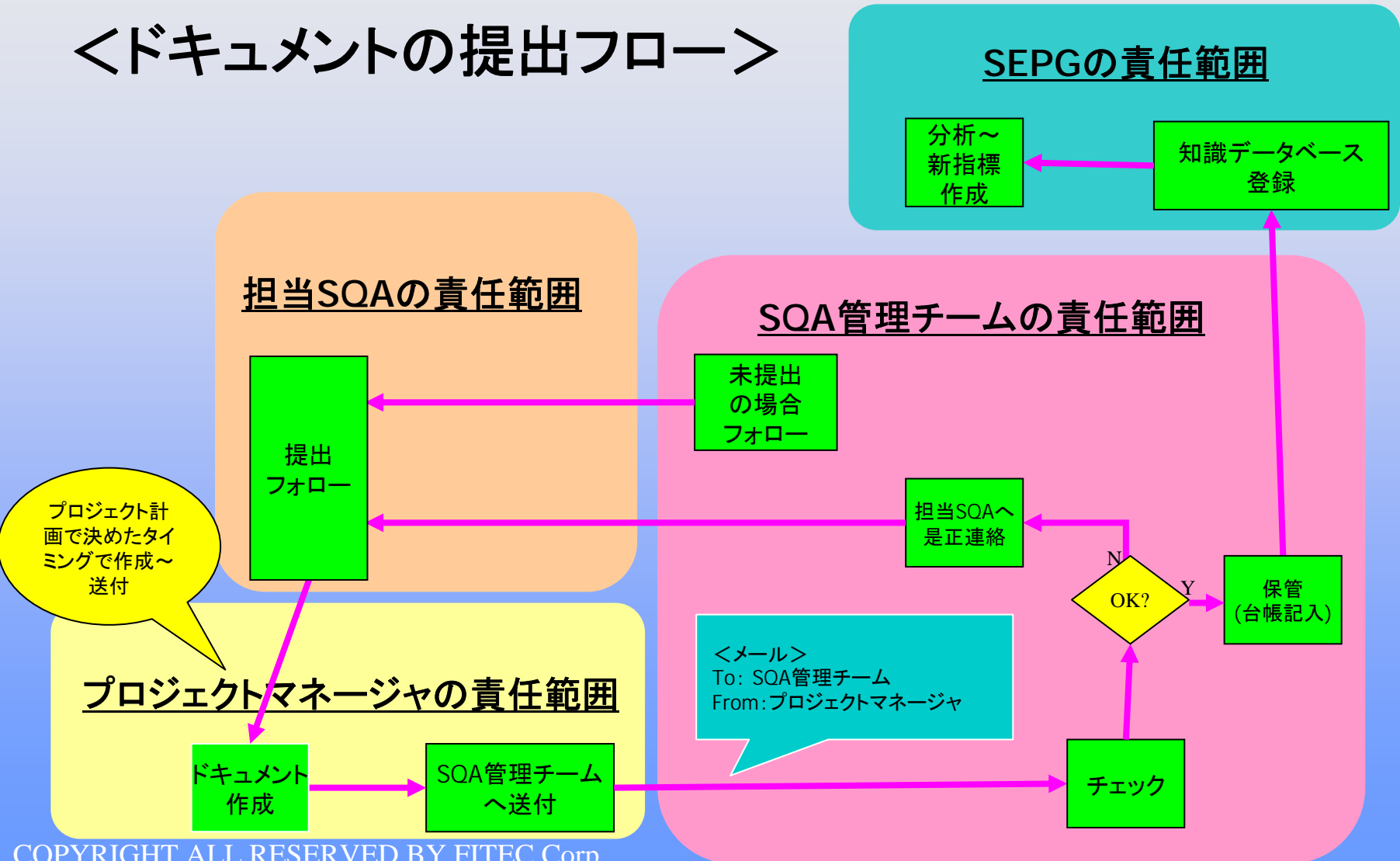
知識データベースの内容 プロジェクト・ショーケース

■ 活動

- [1]プロジェクトマネージャは、プロジェクト計画書の承認後、及びマイルストーン、及びプロジェクト終了時に、作成ドキュメントをSQAへ送付する。
- [2]SQAがドキュメントをレビューし、SEPGへ通知する。
- [3]SEPGがドキュメントをレビューし、知識データベースに掲載する。

知識データベースの内容 プロジェクト・ショーケース

<ドキュメントの提出フロー>



知識データベースの内容 プロジェクト・ショーケース

SQA管理チームの責任範囲

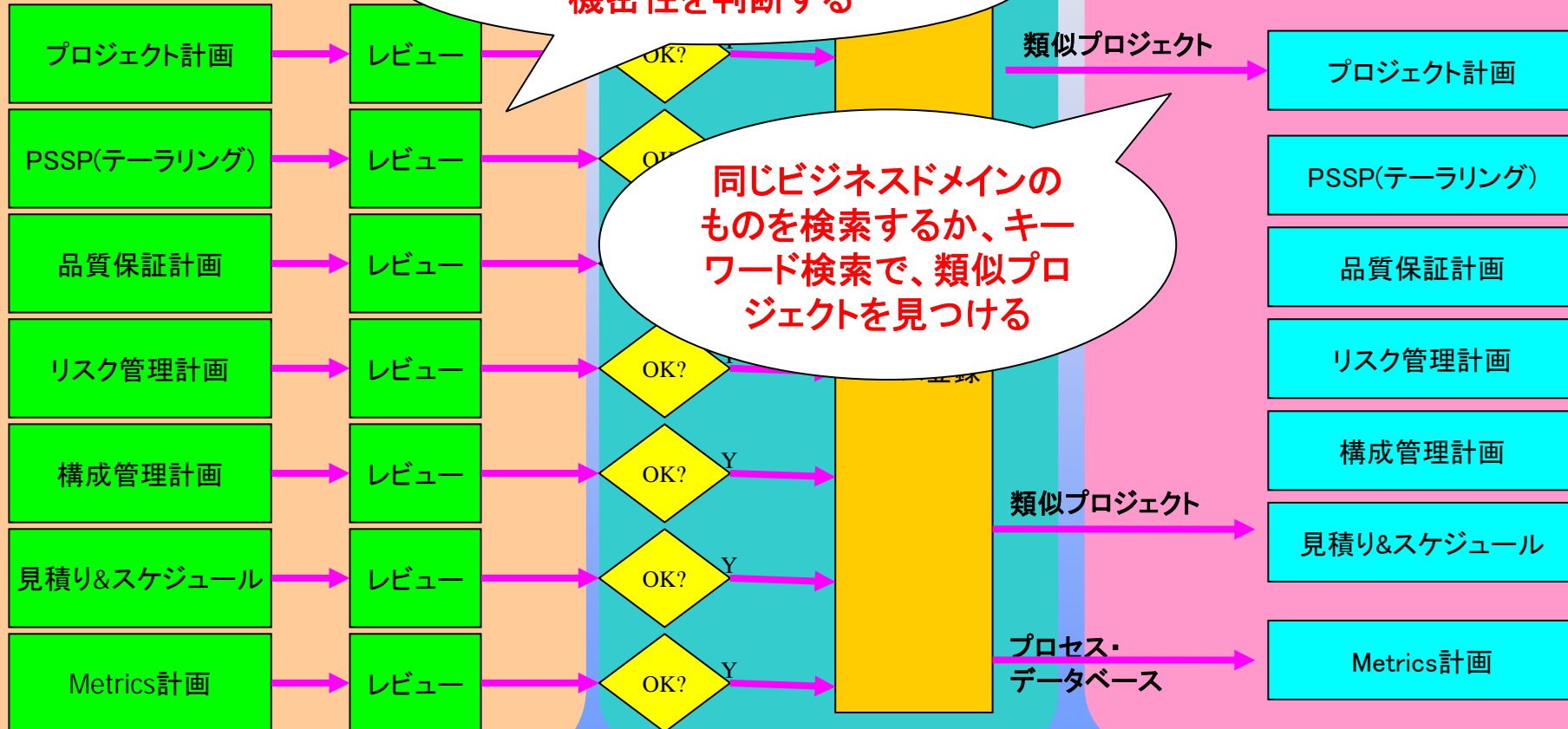
SEPGの責任範囲

プロジェクト

* プロジェクト計画書の収集

レビューは、効果性、
機密性を判断する

* プロジェクト計画書の作成



知識データベースの内容 ベストプラクティス

■ 目的

成功事例を掲載することで、プロジェクトが実装する上での参考資料とする。それにより、プロジェクトを効率良く管理することができる。

■ 内容

プロジェクトで作成したドキュメントの中で、他のプロジェクトにとって参考資料となり得るもの。

SQAのプロセスチェック、及び品質監査をトリガーとする。

■ 担当

SQA ⇒ SEPG

品質監査委員 ⇒ SEPG

知識データベースの内容 ベストプラクティス

■ 活動

- [1]SQAが、プロセスチェックを実施した際にベストプラクティス候補を見つけたら、SEPGへ通知する。
- [2]品質監査実施時、品質監査委員がベストプラクティス候補を見つけたら、SEPGへ通知する。
- [3]SEPGはベストプラクティス候補をレビューし、ベストプラクティスとするかを判断する。そのベストプラクティスを知識データベースに掲載する。

知識データベースの内容 ベストプラクティス

| No. | 目的 | 概要・特徴 | プロセス | 発生 | 成果物の名前 |
|-----|------------------------------|---|--------------|-----|---|
| 36 | PDFファイルへの電子的書き込みによるレビュー記録 | 成果物レビューのやり方として、対象成果物のPDFファイルに修正コメントを電子的に書き込みながら記録していて、非常にわかりやすく効率的である。 | SPTO | PPM | レビュー結果のPDFファイル (参照するPDFリーダーのVer制限あり) |
| 37 | PDFファイルの一括ビルドによる構成管理ベースライン設定 | 基本設計書完了時、詳細完了時に、提出時のベースライン設定の意味で、提出ドキュメントをまとめてPDFファイルとしてビルドしている。ベースラインの電子的明示としてわかりやすい | SCM | PPM | ベースライン設定時にビルドしたPDFファイル |
| 38 | 要件の抜け漏れチェック | 要件調整段階で顧客側が書き出した要件をベースに作成されていて、FITECがこれを抜け盛れチェックのために、随時活用している。 (トレーサビリティマトリクスを開発の初期段階から作成していて、これをプロジェクトがその後の開発下工程でも有効活用しているところがポイント) | 要件管理 | PPM | トレーサビリティマトリクス (システム要件-システム仕様関連表) |
| 39 | リスク管理強化 | 履歴を残し、今回追加や修正は色付きで記述。時期の過ぎたものは灰ハッチング、発生したリスクは赤ハッチング。 | リスク管理 | PPM | PPAシート |
| 40 | 議事録台帳化 | 議事録も量が多くなるとどこにどんな内容を記述しているか分からなくなるので、主な内容を台帳化。 | プロジェクトプロセス管理 | PPM | 議事録一覧 |
| 41 | 外注管理強化 | 外注とのメールでのやり取りを台帳化 | 外注管理 | PPM | ドキュメント送受信履歴 |
| 42 | 外注管理強化 | 外注に詳細設計書の変更を指示する時に、ヘッダーに変更履歴を残し、本文では今回変更分に対して色付きで追加修正(修正無:黒、追加:赤、修正:青、削除:赤取消線) | 外注管理 | PPM | 詳細設計書(表紙) |
| 43 | クリティカルパスと依存関係が見えるスケジュール表 | クリティカルパスの他に「依存関係はあるが融通の利く作業」も明示している | プロジェクト計画 | PPM | スケジュール表 |
| 44 | 詳細な移行手順書 | 移行作業について詳細手順、実行記録も加えている | プロジェクト計画 | PPM | 移行手順書 |
| 45 | 顧客との間で納期遅延の責任所在を明確にする | 納期遅延書を文書化して内容を合意している | 要件管理 | PPM | 納期遅延確認書 |
| 46 | 設計コーディング規約 | 項目名、テーブル名や成果物などの命名基準に加え、設計書内で使用する外来語表現の統一要領なども盛り込んでいる | SSAD | PPM | 命名基準定義 |

知識データベースの内容 プロセス・データベース

■ 目的

プロセス能力ベースライン・目標値を会社レベルで設定し、知識データベースに掲載することで、プロジェクトの管理範囲を示す。ただし、プロジェクトの特性により、例外的に実装することができる。

■ 内容

プロセスを定量的に管理するためのMetrics、成果物の品質を管理するためのMetricsのプロセス能力ベースライン・目標値。生産性、品質コスト、差異分析(サイズ・工数・スケジュール)、欠陥分析。

■ 担当

SEPG

知識データベースの内容 プロセス・データベース

■ 活動

[1]SEPGは、6ヶ月に1度、プロジェクトから収集したMetricsデータを基にプロセス能力ベースライン・目標値を設定し、知識データベースに掲載する。



知識データベースの内容 トレーニング関連

■ 目的

トレーニングチームは、各部門との連携を図るため、トレーニング計画（年次計画、月次計画）、トレーニング教材、トレーニングコースの分析結果を知識データベースに掲載する。

■ 内容

CMMプロセスのトレーニング、開発技法のトレーニング等。

■ 担当

トレーニングチーム ⇒ SEPG

■ 活動

[1] トレーニングチームは、年度開始時にトレーニングの年次計画を作成し、経営層がレビューし、SEPGが知識データベースに掲載する。

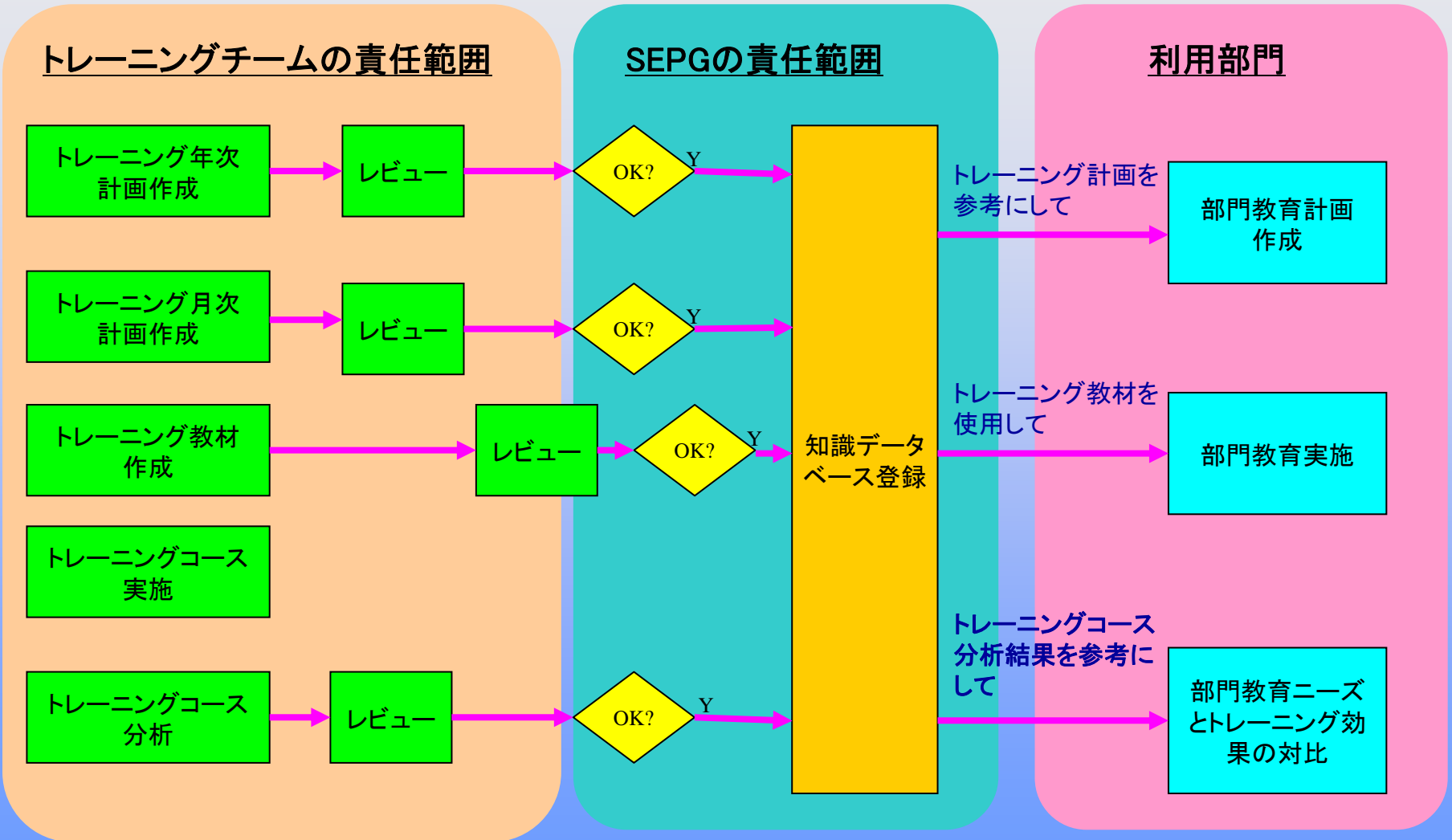
[2] トレーニングチームは、年次計画に基づいてトレーニングコースを実施する。

知識データベースの内容 トレーニング関連

■ 活動

- [3] トレーニングコースの教材をトレーニングチームでレビューし、SEPGが知識データベースに掲載する。
- [4] トレーニング受講者は、トレーニングコース終了後に受講アンケートを記入し、トレーニングチームへ送付する。
- [5] トレーニングチームは、受講アンケートを収集し、分析する。
- [6] 経営層が分析結果をレビューし、SEPGが知識データベースに掲載する。

知識データベースの内容 トレーニング関連



知識データベースへのアクセス

- 知識データベースには、種々の社外秘情報が含まれているため、アカウントは申請制にした。

宛)SEPG長

知識データベース検索権限の設定依頼

下記社員の知識データベースへの検索権限の設定を御願い致します。

| | |
|----------|--|
| 申請年月日 | |
| 申請者(部門長) | |

| 社員NO | 氏名 | 役割(PM, PL, SE等) |
|------|----|-----------------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

(注記)

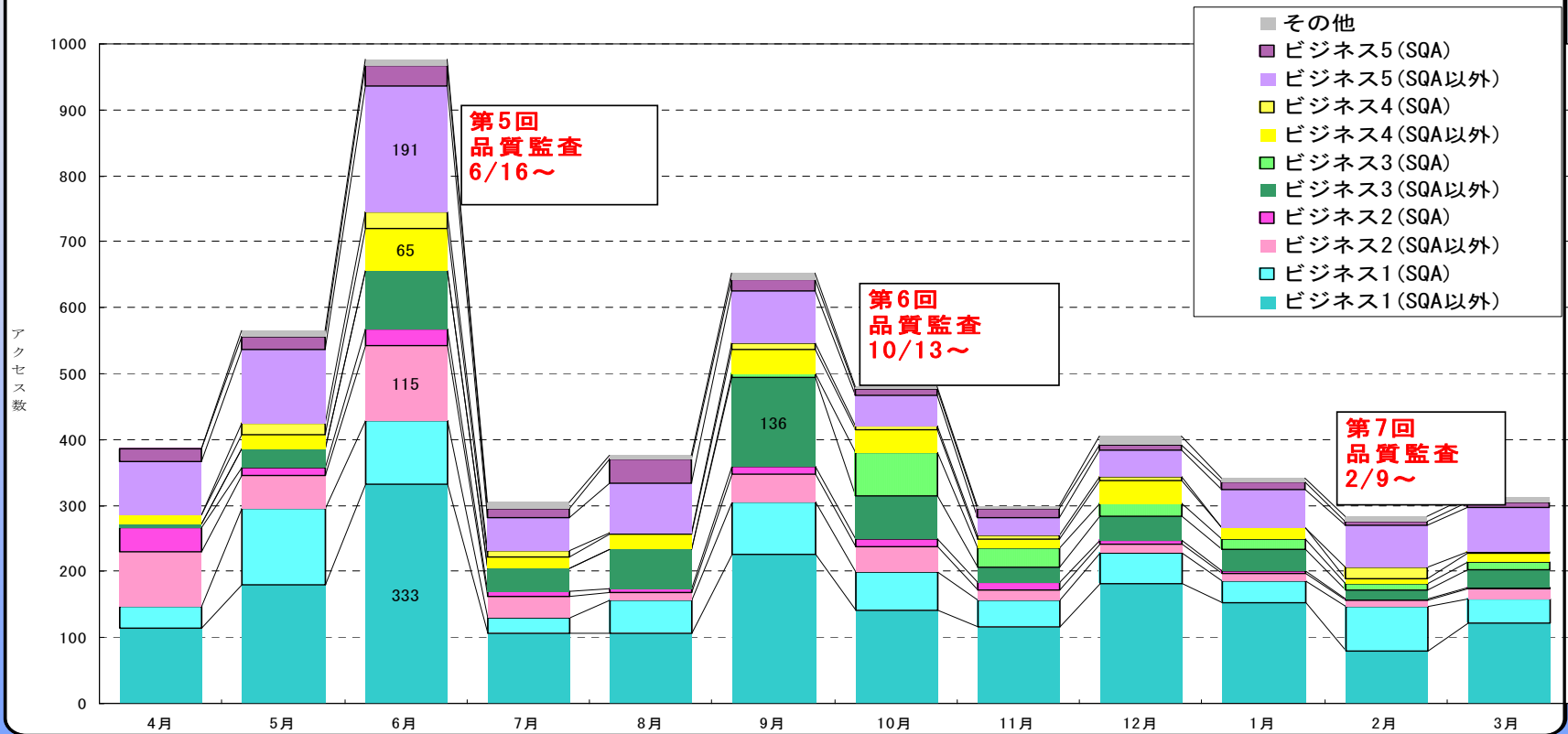
知識データベースは、各種の社外秘情報が含まれています。

申請者は、権限を付与された社員に、セキュリティ管理に関する指導を行うと共に、日常の管理を徹底下さいますよう、御願い致します。

知識データベースへのアクセス

例) 知識データベースの使用状況(2003年度)

2003年度知識データベース使用状況月別 (組織順)



・2003年6月のアクセス数が多いのは、2003年6月に第5回品質監査を実施したことにより、CMMを十分に理解していないメンバーが頻繁にショーケースへアクセスしたことによる。

・2003年10月と2004年2月に品質監査を実施したにも関わらずアクセス数が減少しているのは、CMMの理解が深まったために、必要以上のショーケースへのアクセスが減少したことによる。

知識データベースへのアクセス

- IISの機能を使って、知識データベースへのアクセスログを取得し、SEPGが月毎にアクセス状況を分析している。
- 現状の知識データベースへのアクセスは、品質監査(四半期毎)等のイベントがトリガーになっている傾向が見受けられる。
- CMM導入時、標準プロセスを全社展開するツールとして知識データベースの果たした役割は大きい。また、プロジェクトのデータを知識データベースに蓄積することによって、中央に知識・ノウハウを集約することができた。
- 集約した知識をプロジェクト側へ如何にフィードバックするか、プロジェクト側が如何に活用するかを検討し、今後、更に知識データベースの改善を実施していく。

ありがとうございました